

# TOSHIN Hearing NEWS

2018年3月発行

リオン株式会社

## 「聞こえと脳のトレーニング」冊子が完成

### 補聴器の適切な普及啓発の一環として、リオン株式会社が「聞こえと脳のトレーニング」と銘打って冊子を作成

これから補聴器を装着する方への配布用冊子として、医師や言語聴覚士、認定補聴器技能者が患者様（お客様）を前にして説明する資料をリオンが作成した。済生会宇都宮病院耳鼻咽喉科の新田清一先生監修で既存の同類冊子に比べ医学的な見地からの脳トレーニングの重要性や難聴と認知症の関係などがイラスト入りで分かり易く解説されており、これにより補聴器装用の初期段階に起こる不快感などへの理解が高まり補聴器の普及率アップに寄与することが期待される。

## メディアが続々と番組内で難聴と認知症に関連する内容を放映

### NHK「ガッテン」2017年12月6日放送分

その内容は「認知症を防ぐカギ！あなたの聴力総チェック」と題し、難聴を放置すると脳が委縮し、認知症のリスクが増えるという内容であった。「予防できる認知症要因の中で、難聴が最も危険因子である」として、世界トップクラスの医学誌「ランセット」に2017年7月に掲載された報告を紹介された。スタジオゲストの国際医療福祉大学三田病院聴覚・人工内耳センター長の岩崎聡先生が聞き間違いについて専門的に解説し、「聞き間違いが増え、日常生活に不自由を感じ始めたら耳鼻咽喉科を受診してほしい」と呼びかけた。

番組は続けて、自覚症状の無い難聴について「脳の不思議な働き」と解き明かしつつ、「聞こえの悪い状態が続くと厄介なことにつながる可能性がある」と警鐘を鳴らした。

続いてアメリカのジョンズ・ホプキンズ大学で難聴と脳の関係を長年に渡って研究しているフランク・リン博士の研究結果を発表し「600名以上の脳を10年以上追跡調査した結果、難聴で音の入力が少なくなると、脳の中で音を司る部分の委縮が進み、思考や記憶に重要な役割を果たす能力に影響する。あくまで難聴はリスクの一つだが、言葉を聞くということは脳を働かせるコミュニケーションと関係しており、会話することで相手が次に何を話そうとしているか推測したりする。このネットワークが難聴により崩壊するおそれが高い」と指摘した。また、同博士による639名の11年間追跡調査結果により、難聴の認知症危険度として、軽度難聴は1.89倍、中度難聴は3倍、重度難聴は4.94倍と示された。

番組は最後に、補聴器について簡単にふれた上で「耳鼻咽喉科で検査をして聞こえの症状を確認してから、補聴器の調整を行わなければならない」と早めの耳鼻咽喉科受診を呼びかけた。

### 目次

- 1 「聞こえと脳のトレーニング」
- 2 難聴と認知症関連テレビ番組
- 3 補聴器用ワイヤレス充電システム
- 4 新製品レポート  
v HIT ICS Impulse の紹介
- 5 明石店オープンのご案内

### TBS系「名医のTHE太鼓判！」2018年2月19日放送分

テーマは「耳・鼻・ノドの老化が大病のサイン！見逃すなSP」、コーナー名は「認知症予防に効果！最新超小型補聴器」と題し、「認知症の最大の要因＝難聴」「耳の老化を放置⇒認知症のリスク大」ということで「耳」については、女優のかとうかずこ氏（59歳）をモデルに放送された。かとう氏はテレビの音量が38(90dB)で丁度よく聞こえるが娘は30(80dB)と10dB程の差があり、番組の打ち合わせでも地名の「つざぎ」を間違えて「すざぎ」と覚え、「さとう」と間違っ呼ばれても「かとう」と認識している姿が映し出された。聴力検査の結果、耳鼻科医に軽中等度難聴と診断され補聴器(RIC)を両耳装着し相手の声も自分の声も大きく聞こえると感想を述べるシーンがあった。番組では日、英、米の普及率の違いを紹介し「コミュニケーションの減少⇒疎外・抑うつ⇒認知症」へと進むリスクが大きくなり、補聴器の早期装着が認知症予防の鍵と締めくくった。かとう氏が装着した補聴器は片耳483,840円と紹介され、他にも耳あな型は10.8～51万円(片耳)や、デジタル式骨導補聴器33万円等も紹介された。

## 補聴器用電池と互換性のある充電電池による世界初の「補聴器用ワイヤレス充電システム」を共同開発

2018年6月頃の販売開始を計画



新開発の  
充電電池(左)と空気電池(右)

リオン株式会社と日東電工株式会社(本社:大阪府大阪市、社長:高崎秀雄、以下 Nitto)は、世界で初めて※1「補聴器用ワイヤレス充電システム」を開発した。

このシステムはリオネット補聴器、補聴器用空気電池と互換性のある充電電池※1、およびワイヤレス充電器で構成されており、ユーザーの利便性の向上に大きく寄与するものである。

現在ご使用いただいているリオネット補聴器の充電が可能であり※3、電池交換が苦手な方にとって強い味方となり得る。

※1: 補聴器用空気電池と互換性があり、ワイヤレス充電を実現した補聴器用充電システムは、世界初です。(2017年9月末現在/リオン、Nitto調べ)

※2: リチウムイオン充電電池とワイヤレス充電機能を組み合わせた充電電池モジュール

※3: 現在発売されているポケット型補聴器、HB-M1には非対応

## 新製品レポート 眼球運動検査装置 vHIT ICS Impulse 発売

リオン株式会社

### 眼球運動検査装置 vHIT ICS Impulse をリオン株式会社が2017年12月6日に発売開始

めまい検査の負担を大幅に軽減できる video Head Impulse Test(以下 vHIT)に対応

vHIT とは、医師が専用ゴーグルを装着した被験者の頭を左右に急速に動かし、眼球の動きを計測解析する事でめまい発生原因の一つである三半規管の疾患有無を測定する検査である。これまでの検査は、めまいを誘発させて行う温度刺激検査が主流で、被験者にとっては身体的にも時間的にも大きな負担がかかっていた。vHIT は被験者の負担を大幅に軽減でき、かつ三半規管の状態を従来よりも詳しく検査することが可能である。

また、大掛かりな設備を要せず、めまい発生中の初診時でも診察室内で即時の検査が可能で、早期の原因疾患特定に寄与する。さらに、本検査装置は vHIT 以外の様々な検査に対応し、めまい原因の多くを占める BPPV(良性発作性頭位めまい症)の検査、障害部位の診断にも貢献する。

#### 主な特徴

- 1) 被検者が装着するのは超軽量の専用ゴーグルのみです。
- 2) 超軽量の専用ゴーグルと高性能赤外線カメラの組み合わせにより、約 10 分で左右の三半規管の機能検査(vHIT)が可能です。
- 3) 検査システムは専用ゴーグルとノートパソコンのみで構成されるため、医療機関内の省スペース化が可能になります。
- 4) 省スペースな機器構成、短時間のめまい検査は、診察室内での即時検査を可能とします。
- 5) 高性能赤外線カメラを用い、1 秒間に最大 250 コマの画像を処理、解析することで、眼球の細かな動きを正確に検出します。
- 6) 9 軸モーションセンサーにより、頭部の位置を正確に検出し、めまい原因の多くを占める BPPV の検査、障害部位の診断にも貢献します。
- 7) 診療所から総合・大学病院まで、多くの医療機関に対応する検査機能を備えています。

※ICS はアメリカ合衆国およびその他の国における Otometrics A/S の登録商標です。



#### 仕様

電源 (ゴーグル)	ノート PC の USB より供給
大きさ	ゴーグル : 約184 (幅) ×13~44 (奥行) ×44 (高さ) mm * USBケーブル長 約3m
重さ	ゴーグル : 約60g (USB ケーブル、ストラップを除く)



## 新店舗紹介



### 2017年11月15日に明石店が待望のオープン

日頃より、東播地区で開店してほしいとの声が多く、この度、トーシン補聴器センター29店舗目として兵庫県明石市にオープンいたしました

住所 : 〒673-0892  
兵庫県明石市本町1丁目1-28 明石中村ビル6階601号室  
電話 : 078(995)8133  
ファックス : 078(995)8137  
営業時間 : 午前9時 ~ 午後5時 (日曜・祝日は休業)  
コメント : JR・山陽明石駅より徒歩3分

TOSHIN Hearing NEWS 発行元

 東神実業株式会社  
トーシン補聴器センター

本社 : 〒550-0002 大阪市西区西本町2-4-7

TEL : 06(6531)2541 FAX : 06(6531)3398

URL : <http://www.toshin-ha.co.jp/>